

日本海軍を二度救った男。 山下源太郎



ヨーロッパから千里の波濤を越えてやってくるバルチック艦隊は、ウラジオストックをめざしていました。対する日本海軍においては、バルチック艦隊がどのルートを使って日本海へ入ってくるか、議論が分かれます。

その際、対馬海峡から津軽海峡へと移動しようとした連合艦隊に対し、自重を呼びかけ、結果、日本海海戦を勝利に導いた男がいました。作戦班長を務めていた山下源太郎です。

彼の予測はまさに、日本を救ったといっても過言ではありません。ところが、彼はもう一度、日本海軍にとって重要な仕事をしているのです。

大正十一年（一九二二）、ワシントン軍縮会議によって、日本海海戦で連合艦隊の旗艦を務めた三笠が廃棄されることになりました。

三笠を鉄屑にしてはならない——そう思い、動き出したのが樺山可也少将（当時、海軍砲術学校長）です。そして彼が相談した相手こそ、山下でした。このとき山下源太郎は、海軍の軍令部長となっていました。

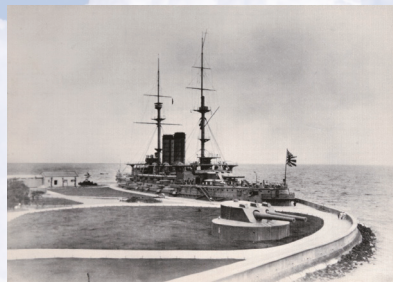
軍縮会議で艦を減らさなければならぬとな

った際、「入り江にでも隠しておけば……」という意見に対し、「海軍軍人たるもの、姑息な真似は断じてできぬ」と、山下は一喝したとい

います。そんな山下が、樺山から相談を受け、どうしたか……。当時、日本で唯一の英字日刊紙であった「ジャパンタイムズ」の主筆・芝染太郎を、樺山に紹介したのです。

その芝が書いた「国民其の艦を忘れて可ならんや、三笠を救え」との記事により、海外で三笠を保存するべきとの動きが高まりを見せま

す。さらに各国大使の助けを借りるなどして、三笠は記念艦として遺ることになりました。かつて、バルチック艦隊の進路を見事に予測した山下源太郎の一手が、三笠——日本海軍の誇りを救ったのです。



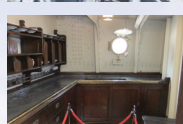
記念艦として保存された当時の「三笠」

三笠だより

戦後復元された記念艦三笠ですが、艦内各所には戦艦当時の遺構が多く残されています。

歴史の息遣いが感じられる多くの遺構

三笠の艦内には、戦艦当時の歴史的な遺構が多く残されています。無線電信室前付近のチーク材床は、この上を東郷平八郎元帥も歩いたという建艦当時のもの。また艦内に展示されている菊花御紋章、長官室のテーブルや鎖、鎖、アンカークレーン、そして長官公室横にある、司令長官や参謀の食事を準備するための部屋「食器室」なども当時のものです。そのほか艦内各所にある、溶接ではなくリベット（鉄）による鉄板接合部は、すべて建艦時の遺構となります。ご来艦の際はぜひ、ご覧ください。



錨と鎖（上）食器室（下）



菊花御紋章

今月の読者特典

三笠ポロシャツ Z 旗刺繍入り 半袖
（定価 3,880 円）

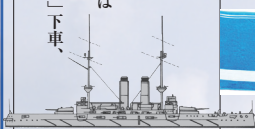


三笠売店で『歴史街道』二〇二〇年七月号を見たとすると、先着 10 名様在三笠フェイスタオルをプレゼント！



記念艦三笠

観覧料金
大人 600 円
65 歳以上 500 円
高校生 300 円
小中学生 無料
京急横須賀中央駅もしくは JR 横須賀駅より
三笠循環バスで「三笠公園」下車、徒歩 1 分



TEL: 046 (822) 5225
http://www.kinenkan-mikasa.or.jp/
時節柄、臨時休艦している場合がございます。
HP 等でご確かめの上、ご来艦ください。